

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部)

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学部ミッションステートメントの教育目的・方針とカリキュラム構成(科目群)の関連性、および、学部カリキュラム編成における体系的性と授業科目を再検討する。	→報告書の作成。	→ -
2. 高い実践能力の涵養という教育目的と各授業科目の適合性や妥当性を評価する。	→学生・実習先・インターンシップ先による評価、評価報告書の作成。	→ -

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	→ ☆
	→	→ ☆

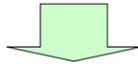
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.2.1	(方針) 学部ミッションステートメントに示された教育目標が達成される教育内容を提供する。 (現状説明) 3学科とも社会福祉士国家試験指定科目の改訂に対応すべく、すでに開設科目の変更を行なった。また、各学科とも学部完成年度に向けて教養教育の位置づけ、教養教育と専門教育の関係、授業科目の体系的な適切さについて検討を始めている。
☆ 小項目6.2.2	(現状説明) 各学科で教育課程にふさわしい教育内容を提供しているかどうか検討している。
☆ その他	進捗評価の「-」は完成年度が終わっていないため、評価不可能であることを表している。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.2.1	社会福祉士国家試験指定科目の改訂に対応した開設科目改変を行った。
★小項目6.2.2	
その他	



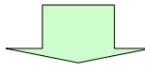
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.2.1	学部のミッションや各学科の特性に合わせた科目編成を行なうために、さらに検討を続ける。
★小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○「進捗評価」不能の判断について、「指標」(報告書の作成)等に照らせば「評価不能」となるかもしれませんが、「指標」を段階的に細分化して、委員会の設置や議論の進展の度合いなどのプロセスを重視したほうが評価の趣旨に沿うのではないかと思います。逆の表現をすれば、年次ごとに評価ができるように指標を設定するのが望ましいということです。6.3の項目でも同様です。

【学内委員】

○小項目6.2.1の現状説明における(方針)は不要です。現状説明に含めてください。
 ○現状説明などの記述はおおむね明確です。
 ○6.2.1に関しては現状を見て評価をするべきでしょう。
 ○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目6.2.1 (現状説明追加)
 社会福祉士や精神保健福祉士といった専門家養成と地域社会・国際社会の福祉向上に貢献する市民の養成という二方向での人材養成をより特徴づけた、さらに、各学科とも関学ならではの特質を反映させたカリキュラムを2012年度から開始することを目指して、定例の学科内ミーティングに加え、学科内でワーキンググループを作り、教養・専門科目の内容と双方のバランスの見直しや検討を進めている。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.2.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.2.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.2.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.2.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

<個別的な指標>
